

## 令和2年第1回水戸市青少年問題協議会

日 時：令和2年2月21日（金）  
午後3時30分から  
会 場：水戸市役所4階 政策会議室

### — 次 第 —

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 題

(1) 今後の青少年育成のあり方について

4 閉 会

## 水戸市青少年問題協議会委員名簿

(令和2年2月21日現在)

No	氏名	選出区分	団体等名及び役職名
1	田山 喜子	学識経験者	茨城県青少年育成アドバイザーの会会長
2	堀井 武重	学識経験者	水戸市住みよいまちづくり推進協議会会長
3	松本 圭一郎	学識経験者	(公社)水戸青年会議所副理事長
4	大津 辰夫	学識経験者	水戸地区保護司会学校連携担当保護司
5	中山 一美	学識経験者	水戸更生保護女性会会長
6	田山 きよ子	学識経験者	水戸市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会副会長
7	笹沼 重晴	学識経験者	水戸市子ども会育成連合会副会長
8	八木岡 しづ子	学識経験者	水戸女性会議会計
9	立川 力	学識経験者	水戸市青少年相談員連絡協議会会長
10	亀田 龍太郎	学識経験者	水戸市青少年育成推進会議地域・環境部長
11	山崎 孝位	学識経験者	水戸市PTA連絡協議会副会長
12	生越 達	学識経験者	茨城大学教育学部長
13	水嶋 陽子	学識経験者	常磐大学人間科学部教授
14	小宮山 祐子	関係機関	水戸家庭裁判所主任家庭裁判所調査官
15	亀丸 建吾	関係機関	水戸警察署生活安全課長
16	根本 栄一	関係機関	茨城県福祉相談センター次長兼相談企画課長
17	朝倉 美広	関係機関	水戸市学校長会代表
18	藤咲 厚郎	関係機関	水戸市学校・警察連絡協議会幹事
19	綿引 健	市議会議員	市議会代表
20	後藤 通子	市議会議員	市議会代表
会長	高橋 靖	地方公共団体の長	水戸市長

(順不同・敬称略)

## 議 題 今後の青少年育成のあり方について

本市では、2016（平成 28）年度に、青少年・若者の健全育成を推進するため、水戸市青少年・若者育成基本計画（第 2 次）を策定している。当該基本計画に基づく本市の行政及び地域における取組については、以下のとおりである（平成 30 年度実績）。

### 1 行政における取組

#### (1) 少年の主張大会の開催

地域、家庭、学校の中で体験したことや日ごろ考えていること、自分たちが暮らしている「水戸」について考えていること等についての作文を募集し、優秀作品については、青少年育成者や同年代の中学生の前で発表した。

【期日】令和元年 7 月 14 日（日）

【会場】ザ・ヒロサワ・シティ会館 大ホール

【実績】少年の主張応募点数：2,940 点

当日参加者：859 人（主張発表：19 人）

#### (2) 中学生交流会の開催

中学生の社会参加への意欲を高めるとともに、幅広い視野を持つことを目的として、市内の中学生が一堂に会し、事前に中学生自身が考案したテーマについて意見交換を行っている。

【期日】令和元年 12 月 14 日（土）

【会場】みと文化交流プラザ 6 階 大会議室

【実績】参加者数 52 人

#### (3) 姉妹都市親善友好少年交歓研修の開催

水戸市と敦賀市（福井県）は、天狗党の争乱を契機にして培われた両市の歴史的経緯を踏まえ、昭和 40 年に姉妹都市の盟約を結んで以降、毎年 7～8 月に敦賀市からの研修使節団を迎え、3 月に敦賀市へ研修使節団を派遣している。

【期日】敦賀市からの使節団来水：第 52 回 令和元年 7 月 20 日（土）～22 日（月）

水戸市からの使節団訪敦：第 54 回 令和 2 年 3 月 20 日（金）～22 日（日）

【実績】参加者数 16 人（市内の小学 5 年生）

#### (4) 水戸市サブリーダーズ会連絡会の支援

水戸市に在住又は水戸市内の高等学校に通う高校生によって組織されるボランティア団体であり、水戸市教育委員会の支援のもと、休日や祝日、長期休業日などに行われている子ども会行事や、水戸市が主催する事業等の“補助指導者”として活動している。

【会員数】56 人

【実績】・水戸市や子ども会等からの派遣要請 51 件（延べ 166 人派遣）

・研修会や講演会への出席 4 件（5 人参加）

・青少年育成団体との共催・協力事業 4 件（30 人参加）

## (5) 少年自然の家の活用

近年都市化が進み自然に親しむ機会が少なくなりつつある子どもたちに、大自然の中で集団宿泊生活や野外活動を通して情操や社会性を豊かにし、学校や家庭では得がたい体験をさせ、健全な子どもを育成するために様々な事業を展開している。

### 【滞在日数別利用状況】

実人数	滞 在 日 数 別 利 用 者 数			稼働日数	延利用者数
	1 日	1泊2日	2泊以上		
12,039人	3,293人	7,773人	973人	196日	22,010人

### 【主催事業実績】

事業名	実施形態	募集定員	人 数
四季の体験学習（田植え～収穫祭）	延べ7日間(宿泊含む)	50人	30人
ウォーターロケットプロジェクト	全4回	30人	26人
サマーキャンプ	2泊3日	80人	78人
天体観測（火星大接近）	1泊2日	20家族	28家族
家族で秋の味覚狩り	日帰り	20家族	19家族
親子で陶器作り	全2回	20家族	18家族
ふたご座流星群 2018	1泊2日	20家族	27家族
自然素材でリース作り	日帰り	20家族	28家族
スターハウス in 自然の家	日帰り	30人	53人
週末ネイチャーデイキャンプ	1泊2日	20組	20組

## (6) 家庭の教育力の向上

ア 市民センターにおける家庭教育事業（家庭教育強化事業含む。）

小学校や幼稚園、保育所、市民センター等において、家庭教育講演会や家庭教育学級（ふれあい学級等）を開催した。

【対象】 0歳から中学生までの子をもつ保護者

【内容】 家庭教育の重要性や子どもとの接し方等に関する講演、親子リトミック教室等

【実績】 176回、延べ9,317人参加

イ mito好文カレッジにおける家庭教育事業

(ア) 子育て応援塾「親業訓練入門講座」

親子間のコミュニケーションについて考える場面を多く取り入れた体験型の講座を実施した。

【対象】 妊娠期の母親、乳幼児から高校生までの子をもつ保護者等

【内容】 グループディスカッション、ロールプレイ等

【実績】 20人参加 ※定員20人

(イ) 子育て応援塾「家庭教育出前講座」

幼稚園等に専門の講師を派遣し、家庭教育に関する講座を開催した。

【対象】 市内の私立幼稚園，認定こども園の保護者，教員等

【内容】 効果的な読み聞かせの方法や絵本がもつ間接体験の意義等についての講演

【実績】 延べ4園 96人参加（保護者 80人，教員 16人）

(ウ) ほっとひといき夢らんど

就園前に集団の中でのルールや遊び等を体験しながら親子で参加する全10回の連続講座を開催した。

【対象】 Aコース：市内在住の1歳半から2歳半未満までの未就園児とその保護者

Bコース：市内在住の2歳半から4歳未満までの未就園児とその保護者

【内容】 ミュージックケア，親子ヨガ，親子料理教室，親子体操教室，親子遊び等

【実績】 Aコース：25組，延べ389人参加

Bコース：26組，延べ402人参加 計51組，延べ791人参加

ウ 訪問型家庭教育支援事業

福祉部門と連携しながら，家庭でのしつけや子どもとの関わり方などに不安や悩みを抱え，支援を必要とする家庭に家庭教育支援員を派遣し，個別相談や情報提供等を実施した。

【対象】 3歳児健診時にチラシの配布とあわせてアンケートを実施し，支援を希望する家庭を選定

【内容】 家庭教育に関する情報提供や個別相談，家庭訪問等

【実績】 3世帯，延べ6回実施

## 2 地域における取組

### ◎子ども会活動への支援

#### ① 取組

子ども会は、年齢の異なる子どもたちが地域で交流することにより、子どもたち自身がその活動を通して社会性を育むことを目的としている。また、子ども会育成会は、子ども会の支援をする育成者による組織であり、その上部団体として、水戸市子ども会育成連合会（市子連）がある。各組織は連携・協力をしながら、子どもの健やかな成長を念頭に、数多くの事業に取り組んでいる。

#### 【市子連の事業実績】

- ・子ども会親善球技大会、水戸市郷土かるた中央大会の開催
- ・子ども会体験事業「子ども会チャレンジ体験会」の開催
- ・広報紙「みと子ども会」の発行

しかしながら、近年、共働き世帯の増加等の社会状況の変化を背景に、地域の育成会の脆弱化が進み、子ども会の加入率は低下の一途をたどっている。

#### 【子ども会の推移】

(各年度5月1日現在)

年 度	平成 20 年度	28 年度	29 年度	30 年度	令和 元年度
児童数（市立小学校、 義務教育学校）	14,721 人	13,623 人	13,421 人	13,364 人	13,133 人
子ども会加入児童数	9,247 人	5,152 人	4,894 人	4,485 人	3,968 人
加入率	62.8%	37.8%	36.5%	33.6%	30.2%
単位子ども会数	349 団体	233 団体	212 団体	196 団体	177 団体

- 活動休止中の学区（4学区）  
三の丸（H30年度）、五軒（R元年度）、千波（H30年度）、赤塚（H26年度）
- 活動を休止する予定の学区（2学区）  
柳河（R2年度）、国田（R2年度）

#### ② 課題

- 保護者の負担感を起因とする加入率の低下
  - ・仕事をもつ保護者が増え、子ども会役員の負担感が増し、役員回避のため、子どもが高学年になると子どもを退会させてしまう保護者が多い。
- 活動休止する子ども会の増加
  - ・子ども会役員のなり手不足により組織を継続することが困難となる。

### ③ 市社会教育委員会議からの提言

#### (1) 加入者の増加への取組

- ア 地域や市民センター等の子ども会への積極的な支援・協力
- イ 地域性を踏まえた負担軽減策の検討
- ウ 学校と子ども会の連携推進

#### (2) 育成者の養成, 確保

- ア 地域に貢献できる育成者(※1)の養成
- イ 地域の教育力向上
- ウ 水戸市子ども会育成連合会サポート隊(※2)の体制強化

※1 育成者とは、子ども会の運営補助や助言を行う子ども会会員の保護者や地域住民をいう。

※2 水戸市子ども会育成連合会サポート隊とは、市子連の活動に関心のある概ね18歳以上の方で構成されており、主催事業等において、ボランティアとして協力している。

#### (3) 多様な形での学校外活動の推進

- ア 学校外における異年齢交流を含んだ集団活動という趣旨を同じくする団体(スポーツ少年団やボーイスカウト等)も広義の子ども会として捉え、子どもたちの参加を促す。